

「デンチャーにおけるデジタルの活用(実践編)」

西濃支部 林 順二

デンチャーの設計から完成まで、全工程をデジタルとアナログとで比較し、臨床を交えながら解説します。

デンチャーの臨床経験の浅い歯科技工士さんでも、この製作方法を行うことで、確実に明日からのステップアップに繋がるメソッドです。

3D プリンターを使用して保険の義歯から金属床義歯までカバー出来るフレームワークを説明します。